

富士フィルムグループの次世代 AI 技術開発拠点を長崎に新設 FUJIFILM Creative AI Center「Brain(s)九州」開設

長崎県・長崎大との協業により、社会インフラ診断を効率化するソリューション提供を加速

2019年1月21日

富士フィルムホールディングス株式会社(社長:助野 健児、以下富士フィルム HD)は、昨年10月に東京・丸の内に開設した次世代 AI 技術を開発する拠点 FUJIFILM Creative AI Center「Brain(s)」(ブレインズ)に続き、本年3月1日に長崎県長崎市に「Brain(s)九州」を開設いたします。「Brain(s)九州」では、開設当初、橋梁をはじめとする社会インフラの維持・管理に関するデータを豊富に蓄積している長崎県および土木工学に関する豊富な知見を有する国立大学法人長崎大学大学院工学研究科と協業し、橋梁など社会インフラ構造物の点検・診断業務を効率化する次世代 AI 技術の研究と、AI 技術を活用したソリューションの社会実装に取り組みます。「Brain(s)九州」は、将来的に、社会インフラ診断だけでなく、様々な領域の社会課題を解決する IT ソリューションの開発・提供を目指します。

当社は、主に画像診断や一般写真の分野で、画像から必要な情報を読み取る AI 技術を開発しており、これまでに、橋梁やトンネルなどのひび割れ点検業務を大幅に効率化する社会インフラ画像診断サービス「ひびみつけ」など、AI 技術を搭載したサービスを提供してきました。2018年10月には、アカデミアとの共創により次世代 AI 技術を開発する拠点 FUJIFILM Creative AI Center「Brain(s)」を東京・丸の内に開設。当社の幅広い事業活動から得られる様々なデータを画像情報と組み合わせ、「統合的に理解や判断を行い、現場を支援する AI 技術」へと発展させています。当社は、「Brain(s)」を、富士フィルムグループの AI 技術者の研究開発拠点として活用するだけでなく、アカデミアと緊密な研究活動を行う場とすることで、それぞれの「知=脳」を結集し、次世代 AI 技術の開発を強力に推進しています。

今回開設する新拠点「Brain(s)九州」では、富士フィルム HD の画像解析・AI 技術と、長崎大学が有する土木工学・社会インフラ維持管理の知見を融合させ、社会インフラ点検に向けた AI 技術を共同で開発します。さらに、長崎県の協力を得て、県内の橋梁施設などを対象に、開発した AI 技術による実証実験を行います。

長崎県は、国内で最も島が多く、それらを結ぶ橋を多数保有しています。長崎大学は、2007年にインフラ長寿化センターを設立し橋梁の維持・管理に関する研究を進めているほか、医学部・工学部が連携し、医療ものづくり人材を育成するなど地域社会において、実用と研究の橋渡しとなる特色ある取組みを行っています。富士フィルムは、長崎県、長崎大学とともに、実社会の課題を解決する知見を取り込んだ AI 技術を開発しソリューションの社会実装を加速します。

2020年4月には、当社のグループ会社で、最新の AI/IT ソリューションを設計・実装するソフトウェア開発機能を持つ富士フィルムソフトウェア株式会社が、「Brain(s)九州」の利用を開始する予定です。同社を加えて、「Brain(s)九州」の機能・人員を拡充し、研究・開発から商品化までを一貫して対応できる拠点にするとともに、長崎県による IT 人材の育成・採用支援を受けて、九州地域での就労希望を持つ高度 IT 人材の活躍の場にしていきたいと思います。

富士フィルム HD は、幅広い分野において活用できる AI 技術の開発をより強力に推進し、社会課題を解決する革新的な製品・ソリューションを提供していきます。

Brain(s)

FUJIFILM Creative AI Center

記

<FUJIFILM Creative AI Center「Brain(s)九州」の概要>

- ・名称 「Brain(s)九州」
- ・所在地 長崎県長崎市内

<本件に関するお問い合わせ先>

富士フイルムホールディングス株式会社 経営企画部 コーポレートコミュニケーション室 TEL:03-6271-2000

「Brain(s)」WEB サイト: <https://brains.fujifilm.com>